



原野 敏彦 議員

ボランティアセンターの活用は 今後の運営を検討

■問
ボランティアセンターの利用状況は、前回の一般質問での報告を受けて解りましたが、その中で利用件数が一日三件と非常に少なく、このままだと福祉課長が思われている須恵町の核とした町づくりの拠点にならないのではないのでしょうか。

そこで、ボランティアセンターの活用方法で福祉工房すえのパンの前年度の売上げと本年度の見込みを聞きたい。

また、すえのパン施設の耐用年数の問題で、今後の営業の継続が不透明です。

今後、すえのパンの経営改善を行うのか、すえのパン以外の事業を行い

収支改善を行うのか、また何も行わないのか等の考えは。

要望だが、ボランティアセンター検討委員会を立ち上げたかどうか。

■答 吉松福祉課長
福祉工房すえのパンの前年度の売上は、三千四百万円、支出が四千二百万円と八百万円の赤字となっております。

町からの補助金を算入しても六百万円の赤字と



運営方法が検討される「ボランティアセンター」

いうことになりました。

本年度見込みについては、事業の縮小に伴い二千六百万円の売り上げを見込んでいます。

今後の営業について、結論を申しますと現行の福祉工房すえのパンは平成二十一年三月末日をもって撤退したいと考えています。

ボランティアセンターの運営については、ボランティアセンターというネーミングが「ボランティアをしていないから利用できないのでは」という懸念もあることからまず名前から何とか検討してみたいと思っています。

また、運営方法について須恵町商工会からも検討していただくと話がありますので、福祉課・社会福祉協議会・商工会とでタイアップしながら、白紙の状態から今後の根本的な利用・運営問題について検討していきたいと思っています。

文教厚生委員会

福祉関係の補正予算については、市町村への補助金の打ち切りや、地方交付税の削減等により財政が逼迫する中、当委員会としましては、いかに支出を削減するかの視点に立ち、行政改革に取り組んでいます。

各種団体への補助金・助成金及び交付金の見直し、また人件費・出張旅費・消耗品費等の削減等議論が絶えないところで

中でも敬老祝金については、節目支給となり大変ご迷惑をかけ誠に申し訳ないと思っております。当委員会といたしましても、行財政改革はもとより安心安全な町づくりを目指し、頑張っていく決意です。

古賀葬祭場の名称を「昇華苑」に

平成二十一年一月一日から、葬祭場施設の名称及び北筑衛生施設組合の名称が変更されるようになります。

以前より地元からの要望事項であり、「北筑衛生施設組合」が「北筑昇華苑組合」に「組合立古賀葬祭場」が「昇華苑」と呼ばれるようになります。

(全員賛成で可決)



名称が変わる「古賀葬祭場」

総務建設産業委員会

土木工事の施工

工事名	工事長(m)	事業費(円)
松浦地区水路改良工事	151.6	7,000,000
須恵～井尻線舗装改良工事	231.0	7,000,000
城山北側線道路改良工事	183.4	15,500,000
かやの地区側溝改良工事	192.0	11,000,000



現場確認を行う議員団

緊縮財政に伴い、工事の激減が余儀なくされています。

今回は、上記の小規模

な四件の工事となり、必要最小限になっています。(全員賛成で可決)